

(参考様式4)

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金
事業活用活性化計画目標評価報告書

平成29年9月20日作成

活性化計画名	常陸太田市農村地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
茨城県常陸太田市	082121	1	平成22年度～ 平成28年度	平成22年度, 平成26年度～ 平成28年度
活性化計画の区域				
茨城県常陸太田市全域（人口集中地区を除く）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率（%） B/A	備考
交流人口の増加	10.53%	36.93%	350.71%	

(コメント)

地域資源活用総合交流促進施設（都市農山漁村総合交流促進施設）である「道の駅ひたちらおた」を整備したことにより、常陸太田市の産業の核である農林畜産業の活性化が図られたとともに、計画目標である常陸太田市全域への交流人口（市内主要観光地への入込客数）の増加が図られた。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
都市農山漁村総合交流促進施設	・実施設計 1式 ・総合交流促進施設 1棟 1303.80㎡ ・体験ほ場 1式 648.00㎡ ・付帯施設（地下式調整池） 1式		常陸太田市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
常陸太田産業振興株式会社 （指定管理）	平成22年度	平成28年度	平成28年7月21日
事業の効果			
地域資源を活用した総合交流促進施設として、都市農山漁村総合交流促進施設を整備し、また、同時に管理運営を行う第三セクターである常陸太田産業振興株式会社を立ち上げ、直売所やレストランによる地元農産物の販売及び食事の提供、体験交流室を活用した料理教室など体験型交流イベントの開催、体験ほ場におけるトマトの摘み取り体験の実施など、施設を利用した交流人口の拡大に寄与するとともに、観光案内所の設置により、市内の観光地への誘客・送客を図るなど、総合交流の拠点施設としての役割を果たしている。 都市農山漁村総合交流促進施設レジ通過者数：700,200人 (H28.7.21～H29.3.31)			

3 総合評価

(コメント)

当事業を活用し、都市農山漁村総合交流促進施設を整備したことにより、常陸太田市の基幹産業である農林畜産業や商工業等地域経済の活性化が図られたとともに、交流人口の拡大により、人と地域の元気づくりが図られた。

今後も、市内農林畜産業等の活性化及び市域・茨城県北地域全体への人・もの・情報等の地域間交流促進と地域産業の活性化に寄与すると期待できる。

4 第三者の意見

□茨城大学人文学部現代社会科学科 准教授 小原規宏

事業活用活性化計画目標の達成状況については、目標値を相当上回っているので当事業を活用して都市農山漁村総合交流促進施設を設置した意味は大いにあったと感じている。

当施設ができたことにより、メディア等に取り上げられ、市民も嬉しいと感じ、地域への愛着も生まれていると感じる。

今後は、当施設において、お客様をさらに長時間滞留させる取組について検討するとともに、若者を引き付けるような仕組みや、年に一つ程度、新しい「もの」や「こと」を作るなど、更なる魅力づくりに期待する。

□㈱JTB関東法人営業水戸支店 執行役員支店長 柳沢一道

目標である地場産業を生かした交流人口の拡大の成果が出ていると思う。

オープン2年目であることや、全国の道の駅ブームを鑑み、今後は、地域資源活用総合交流促進施設の魅力アップ、さらには、当施設が中心となって他地域と連携した取り組みによる市内全域への交流人口拡大策を検討し、推進していただきたい。

□「道の駅」茨城県ブロック連絡会 事務局 大嶋雅弘

都市農山漁村総合交流促進施設の完成により、生産者等には、前年にはなかった売上や所得が発生し、地域産業の活性化の面で貢献したと思う。

また、他の市内観光施設等への良い刺激となり、市全体で見れば、良い相乗効果になっている。

□常陸太田市認定農業者の会 会長 椎名尚志

都市農山漁村総合交流促進施設の効果として、生産者の所得向上に寄与しているだけでなく、中山間の農地の少ない農家にも、生産意欲を向上させる事が出来ている様に思われる。今後も、常陸太田の農業が再生していく拠点になる事を期待する。

□子育て調査隊ひこうき雲 代表 秋山智代

都市農山漁村総合交流促進施設について、地域住民として、仕事柄、お土産を持っていく場合には市内産の様々なお土産類がそろっているのでよく利用するとともに、高速バスや待ち合わせ場所としての利用など色々な利活用をしている。

また、レストランにおいては「野菜が美味しい」との声が聞かれる。